

1978年から始めた個展は2005年には43回を数える。個展を中心に発表を進める中で問題となるのは、いかに自作に相対的な存在価値を与え、また社会の中での位置づけをどのように行うかである。「芸術のための芸術」ではないが、得てして個展を通しての作品発表は自己満足であったり、あるいは芸術と社会との関わりを無視し、作品そのもので完結させようとするものになりがちである。

これらの危惧に対する答えとして、一つには多数の作品の中に自作を交えて観ることである。このことにより作品と一定の距離が保て、客観的に判断ができる。と同時に、他者との比較の中で相対的な効果・価値判断もできる。国内に限らず海外での発表は特に刺激的なもので、それぞれの作家のアイデンティティとの葛藤も興味深いものがある。

社会との関わりでいえばもう一つ、コミッションの仕事がある。作品がどのように社会と関わるのか。作品に込められたメッセージあるいはコンセプト以外にも、作品自体がどこにどのように設置され、誰が見るのかということをご想定し制作することは、個展におけるギャラリーというニュートラルで現代社会からすれば異空間での設置とは異なり、まさに今自身が生きているこの社会との関わりを体感できるものである。また、当然ながらクライアントの要望や意向を汲みながらの制作は自由な制作とは全く違い、そのことがかえって自身を大きくさせるようにも感じる。その意味で、2006年は個展ではなく海外での展覧会やコミッションの仕事に焦点を当てたものとなった。

WORK '06- VIIは6月から9月にかけて催されたAZABU 10BAN ART TEXTILE II (元麻布ギャラリー 東京他 仙台 富山 沖縄) に出品した作品の一部である。

WORK '06- IVは7月から9月までハンガリーで開催されたミニ

アチュールの展覧会の出品作品である。

コミッションの仕事は3点。2005年12月にオープンした「マダリン オリエンタル 東京」に納めた作品2点と2006年4月に開館した「JA 共済連 幕張総合研修センター (千葉市)」に納めた作品がある。

WORK '05- IIは研修センターの作品で、それは2005年から東京で担当者と建築設計図面を介して話し合うところから始まった。その建物や内装のコンセプトを聞く中で、作品に込めたメッセージは以下の通りである。

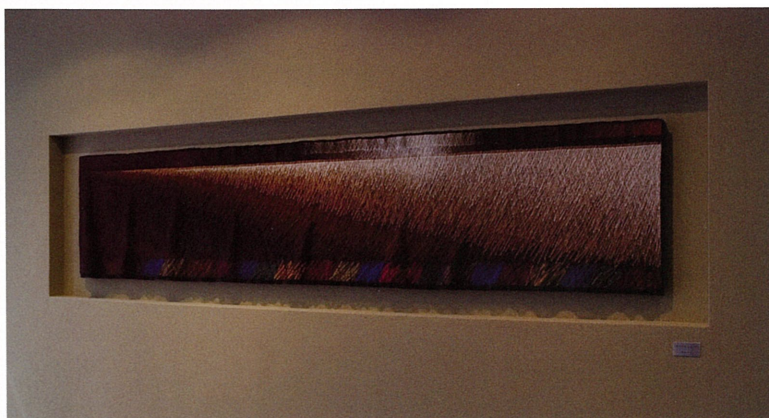
「WORK '05- II

合理主義と拝金主義により成長、発展することを目指した20世紀は、さまざまな問題を生み、多くのものを犠牲にしてきた。自然環境を破壊し公害を生み、地球自体を人が人として住みづらい場としてしまった。そして、われわれは21世紀に向けて新しい価値観、コンセプトを立ち上げないと未来のないことを感じ始めている。

まず、われわれ人間が自然の一部であることを認識し、その上で人が自然といかに向き合うべきかをわれわれも考え始めた。世紀末になり、「人と自然との共生」が叫ばれるようになった。20世紀を象徴する言葉がファーストフードならば、21世紀はその対局として近年よく耳にするスローフードという言葉だと言える。

この概念はスローデザインなどさまざまな分野に広がっているが、その中でも人の生活や生き方そのものまでもスローライフという言葉で包み込もうとしている。

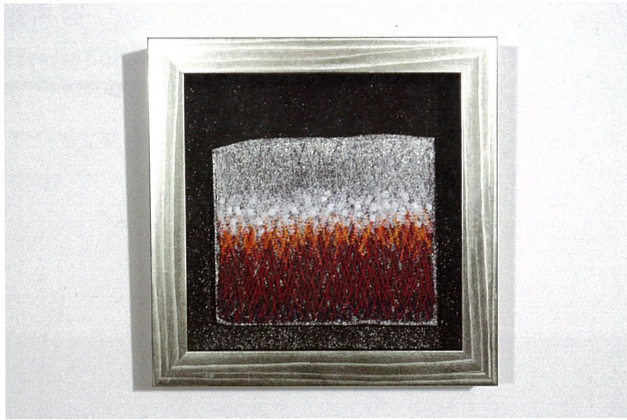
21世紀われわれは、自然との関わりを取り戻し、自然あるいは大地の恵みについて再考しなければならない。この作品「WORK '05- II」はこういった思いを込めたものである。」



《WORK '05- II》

2005-06

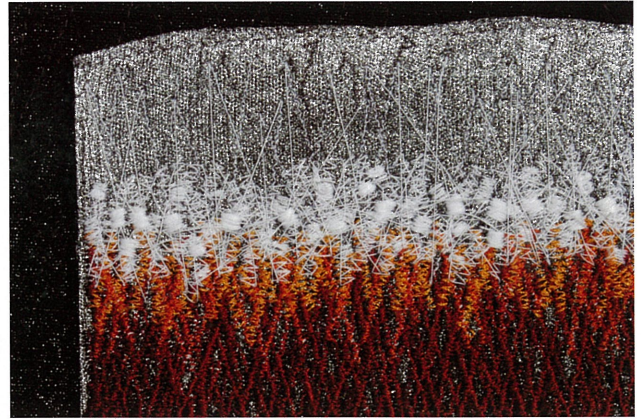
麻布、ポリエステル意糸、不織布 (芯地)、反応性染料/縫い、染色  
H500 × W2500 × D60mm



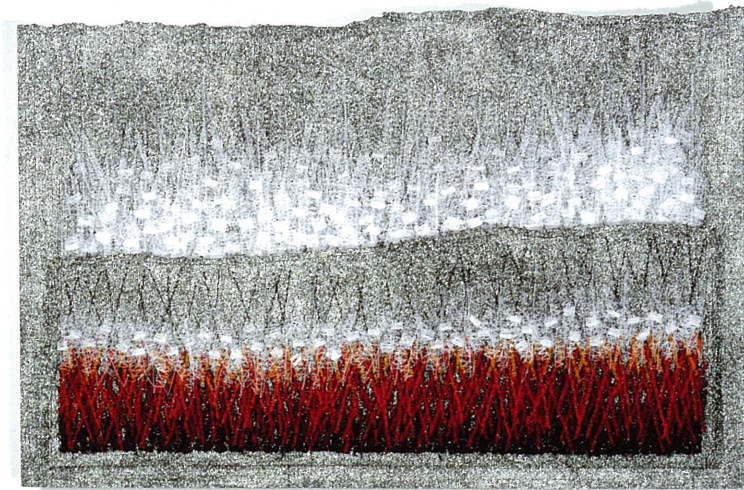
《WORK '06- IV》

2006

麻布、ポリエステル意糸、不織布（芯地）、反応性染料／縫い、染色  
H162 × W162 × D30mm



《WORK '06- IV》 detail



《WORK '06- VII》

2006

麻布、ポリエステル意糸、不織布（芯地）、反応性染料／縫い、染色  
H205 × W310 × D25cm

1952 京都市生まれ

1977 京都市立芸術大学美術学部染織専攻卒業

1979 京都市立芸術大学美術専攻科染織専攻修了

1978-05 個展（43回 京都、東京、アメリカ等）

#### 展覧会等

2001 TEXTURAL SPACE (Farnham, Brighton, Maidstone etc. UK 02年まで英国巡回)

2002 The 5th International Festival of Tapestry and Fiber Art (Musée Départemental, Beauvais l'Oise, France etc.)

2003 The 1st International Triennial for Minitextiles (Gallery of Szombathely, Hungary)

2004 Sublime Beauty 5人展（インターネット上の展覧会、USA）

ART EMBROIDERY -a wide focus on new territories- (ALEXANDRA PALACE, London, UK etc. FRANCE)

2005 Soft Forms (Gallery Wooduk, Seoul, Korea)

2005-06 Transformations: the language of craft

(National Gallery of Australia, Canberra AU)

2005-06 ART EMBROIDERY -portrait gallery- (ALEXANDRA PALACE, London, UK etc. FRANCE)

2006 The 2nd International Triennial for Minitextiles (Gallery of Szombathely, Hungary)

#### 主な受賞

1992-93 フルブライト・グラント (Fulbright Scholar -in-Residence) を得て、ニュージャージー州立モンクレア大学 (Montclair State University) にて客員教授として教鞭を執る。

1994 特別優秀賞：京都工芸ビエンナーレ 1994(京都府買い上げ)

1999 大賞（内閣総理大臣賞）：ITF 第6回国際テキスタイルコンペティション'99 - 京都 - 京展賞：1999 京展（京都市美術館買い上げ）

2003 第13回秀明文化賞：財団法人秀明文化財団（滋賀）

#### 主なパブリックコレクション

日本国際交流基金

京都府総合資料館

ベルリール (Bellerive) 美術館 (スイス)

国立国際美術館 (大阪)

京都文化博物館

大津市

和歌山県立医科大学付属図書館

京都市美術館

群馬県立日本絹の里

サリー (Surrey) 美術大学 (英国)

ゾンバトヘイ (Szombathely) 美術館 (ハンガリー)

オーストラリア国立美術館 (National Gallery of Australia, Canberra)

2005年4月着任